



民生委員・児童委員マーク

# ともしび

にしのみや

第7号

令和3(2021)年3月1日発行  
西宮市

民生委員・児童委員会

事務局:西宮市地域共生推進課

☎0798-35-3032

発行責任者:安東裕子

## コロナ禍と

## 民生委員活動

今出来ることを

〜民生委員・児童委員として〜

新型コロナウイルス感染症は令和二年(二〇二〇年)春頃から西宮市でも急速に拡大しました。

未知のウィルスの拡大に不安は増し、地域住民に寄り添う存在である我々民生委員・児童委員(以下「民生委員」という)にとって「人との接触を避ける」ことを求められることに戸惑うばかりでした。

「新しい生活様式」に見合う民生委員活動とは何か。正解が分からない中、委員同士が意見を出し合い、少しずつ活動を再開させました。訪問活動では極力接触を避けるために電話やインターフォン越しなど、これまでとはちがう方法も用いました。



閉じこもりがちになっている高齢者への声掛けは貴重な機会です。

住民の表情が見えないことは意思疎通が難しく、体調の変化に気づきにくいです。更には詐欺事件が多くプライバシー

保護意識の高まる昨今の時代情勢も追い打ちをかけ、コロナ禍での活動には多くの困難を感じました。  
一方で、「こういう大変な時期に声を掛けてくれてありがたいです」との感謝の言葉を頂いたことはとても励みになりました。また、短時間で効率のよい活動を行うための工夫は、より効果的な民生委員活動につながる



外出出来ず、辛い思いをしている子育て家庭にとって地域のつながりは大切です。

こともありました。  
このウィルスがいつ収束に向かうかは分かりません。ただこの困難な状況に委員一同が思いを寄せ、力を合わせることで、委員同士の結束力を高めているのではと前向きな気持ちも芽生えています。そのことが地域住民の幸せにつながることを信じています。

### 民生委員・児童委員とは

地域の推薦をうけ、厚生労働大臣の委嘱を受けた、特別職の地方公務員(非常勤)です。

西宮市の民生委員・児童委員は健やか赤ちゃん訪問や高齢者実態把握調査などを行っています。

地区活動紹介

西宮市の民生委員・児童委員会には十二の地区民生委員・児童委員協議会があります。各地区協議会の活動を紹介します。

大社地区

大社地区は北は甲山、南は阪急神戸線までの自然や教育環境が充実した生活圏として古くから住民に愛されているエリアです。大社・神原・甲陽園の三校区に現在五十三名

(主任児童委員二名を含む)の民生委員・児童委員が活躍しています。「健やか赤ちゃん訪問」「高齢者実態把握調査」を始め管外研修など、他団体と連携しつつ様々な行事を行っています。



「西宮いきいき体操」会場の様子。参加者はマスクの着用をお願いしています。

昨年は前例の無い新型コロナウイルスという感染症の蔓延でそれらの多くが中止となりました。

手探りの中で感染予防の工夫を重ね、やっと昨秋から再開しつつあります。

その一つ「西宮いきいき体操」は多くの箇所で行われ、各所とも盛況で市民の健康維持と交流の場となつています。会場は参加者の住所に限定されないの、他地区住民の顔が見え、個々の近況を委員間で共有することもあります。感染予防対策として検温・手指と器具消毒・マスク着用・三密防止に人数制限や開始時間を分けたり広い会場を利用するなどの取り組みをしています。

この未知の状況に改めて普通の生活がどれほど幸福なものか噛みしめることになりました。日も早い新型コロナウイルスの収束を願っております。

「ともしび」の由来

民生委員・児童委員は、社会的弱者の方等の見守りや支援の「ともしび(窓口)」です。地域ではその窓口の存在を知らない方も多いため、この広報紙を通して民生委員・児童委員の認知度を高めていければとの思いから「ともしび」と名付けました。

「ともしび」1～6号は西宮市HPからご覧いただけます

『健康・福祉→社会福祉→地域福祉→民生委員・児童委員について→民生委員広報紙』  
でご覧ください。

入選川柳

・一目惚れ  
老いらく恋の  
民見役

高畑町

小西 寒心

川柳募集

編集部では川柳コーナー掲載を予定しています。読者の皆様の投稿を募集します。日常の民生委員・児童委員活動のエピソードなどを川柳に詠み込みお寄せ下さい。左記にご連絡をお願い致します。

入選された方には心ばかりの品を贈呈致します。

西宮市地域共生推進課  
☎ 〇七九八―三五一三〇三三  
FAX 〇七九八―二六一三三四〇  
✉ chikikyosei@nishi.or.jp

編集後記



新型コロナウイルス感染の二ニュースに明け暮れた令和二年度。そして今もお、その勢いは衰えを知らず感染者は増え続けています。コロナ禍は社会全体に大きな影響をもたらす、あらゆる活動が制限を受ける非常事態となりました。

私たちの重要視される活動のついに訪問活動があります。コロナ禍の中の電話やインターホン越しの対応では相手の表情が見えてこないため十分とは言えず心残りがつきまといま

す。今後、委員の情報交換をいっそう密にして創意工夫をこらし、この難局を乗り越えたいと思います。今回の「ともしび」はそんなコロナ禍の中での委員の活動を通じての悲喜もごもを中心に取り上げてみました。一日も早いコロナ禍の終息を願ってやみません。

山口地区 本田三延